学校番号	３０２６

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ（GS）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ｂ（数研出版）						
副教材等	サクシード数学Ⅱ＋Ｂ解答付き サクシード数学Ⅱ＋Ｂ完成ノート スタディサプリ（デジタル教材）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

自律した学習能力を身に付けることを大切に進めていきます。数学IAに比べて、より発展した内容を学習します。問題が解けるかどうかを単に目指すわけではなく、なぜこうなるのかを自分で説明できるようなることや、なぜこのような公式が成り立つのかを数学的根拠に基づきながら理解し、さらに証明できることを目指します。1 年次では英語選択者、日本語選択者で分かれて学習していましたが、数学Bは日本語で学習していきます。みなさんにお願いしたいことは①1年次に学習したことを復習してください。特に英語選択で学習した人は日本語での理解をし直してください。②難しいと感じたら無理に進まず振り返って自分が分かるところまで戻ることです。このように丁寧に振り返ることで数学の世界を根本的なところから理解することができます。そのような理解は、他教科や学校生活や私生活の中でも役立ちます。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、論理的思考力、数学的技能・能力・思考力を身に付けることを目指す。
数列、統計について発展的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、数学と人間社会乃関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現する技能を身に付けられるようにする。
教科書や問題集にない未知の問題に取り組む経験を通して、単なる公式の暗記や解法のパターン化のみに終始せず、数学に創造的に取り組もうとする態度を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観点の趣旨	数学における基本的な概念を様々な方法で表現する方法を理解し、説明しようとしている。また、数学的な概念を他者に概念を用いて効果的に説明することができる。身の回りの事象や、数学特有の事象について、数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	身の回りの事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。レポート課題等で、独自の視点から考察することができ、かつ数式や図を用いた数学的な表現が十分できる。１つの問題に対し、複数の解答方法を示すことができる。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする。また、粘り強く考え、数学的根拠に基づいて判断しようとする。問題解決の過程を振り返り、考察を深め、評価・改善しようとする。自分の目標に対して、自分で計画を立て学習することができる。 課題に対して、実施することだけを目標にするのではなく、自身の能力を伸ばすように積極的に取り組むことができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数列	等差数列、等比数列とその和 和の記号 Σ 階差数列 漸化式 隣接 3 項間漸化式 数学的帰納法といろいろな証明	a: 数列の基本事項をおさえ、様々な数列を理解できる。数列における規則性について、数式や図などを用いて効果的に説明することができる。 b: レポート課題等で、独自の視点から考察することができ、かつ数式や図を用いた数学的な表現が十分にできる。１つの問題に対し、複数の解答を示すことができる。 c: 社会の中に存在する規則性やパターンについて自ら見つけ、数列の概念を用い、数学的根拠に基づいて考察・判断できる。	小テスト 期末試験	レポート 課題 期末試験	宿題 レポート 課題
2学期	統計的な推測	確率変数と確率分布 期待値・分散 二項分布 正規分布 母集団と標本 推定 仮説検定	a: 期待値、二項分布、正規分布などの基本事項を理解し、どのような事象がどのような分布になるか理解できる。問題を解く際、表やグラフ、数式を用いて効果的に考えることができる。 b: レポート課題等で、独自の視点から考察することができ、かつ数式や図を用いた数学的な表現が十分にできる。 c: 世の中でどのように統計が利用されているのか考え、正確な活用方法を、数学的根拠に基づいて考察・判断できる。	小テスト 期末試験	レポート 課題 期末試験	宿題 レポート 課題
3学期	平面のベクトル	平面上のベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 ベクトル方程式	a: 平面ベクトルの基本事項を理解できる。問題に取り組む際、表やグラフ、数式を用いて効果的に他者に伝えることができる。 b: レポート課題等で、独自の視点から考察することができ、かつ数式や図を用いた数学的な表現が十分にできる。 c: 世の中でどのようにベクトルの概念が利用されているのか考え、正確な活用方法を、数学的根拠に基づいて考察・判断できる。	小テスト 期末試験	レポート 課題 期末試験	宿題 レポート 課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度